

東京大学大学院工学系研究科都市持続再生学コース
2019年度 A2 ターム 都市社会論（都市経営基礎第4）
シラバス

担当 三浦倫平（横浜国立大学准教授）
祐成保志（東京大学准教授）

開講日 2019年11月22日～2020年01月31日
金曜日 金曜6限（18:40-20:05）・7限（20:10-21:35）（85分×2）
工学部14号館141講義室（1階）

<講義の目的>

本講義では、「まちづくり」という集合的な実践について、主に社会学の観点から整理、分析、考察する。

かつて、経済開発一辺倒だった都市政策の問題性を主張し、社会開発（シビル・ミニマムの達成）を要求した住民運動/市民運動は「まちづくり」という流れに結実した。その後、現代に至るまで「まちづくり」という実践は多様な領域に展開し、「まちづくり」という言葉は社会に定着したが、その一方で、「まちづくり」の意味は多義化し、捉えがたいものになってきている。

そこで、本講義では、担当者およびゲストスピーカーによる最新の研究/実践報告を素材にして、「まちづくり」という実践を社会的な切り口から捉えると、どのような整理や分析、考察が可能になるのかということについて紹介、検討していきたい。その上で、受講者との双方向的なコミュニケーションを図り、相互理解を促進することを目指す。

I. コミュニティの社会学 11月22日

まちづくりの研究と実践において、必ずと言っていいほど議論されるのが「コミュニティ」の概念である。社会学者は、コミュニティという「謎」に最も深く、持続的に関心を寄せてきた。前半は、経験的な調査を中心に、社会学のコミュニティ研究が何を問い、何を明らかにしてきたかを紹介する。後半はコミュニティの成立における「居住」という契機に焦点を絞り、コミュニティと住宅の関係について考察する。

今年度のすすめ方、インストラクション

- ① 祐成保志 「コミュニティ研究とは何か」
- ② 祐成保志 「コミュニティと住宅」

II. 都市空間の社会学 11月29日

近代化が進む過程で「都市」は異質な他者が近接する「よそ者の空間」となった。都市という空間に内在的に孕まれる異質性を「まちづくり」という集合的な実践をいかに取り扱っていくかという点は今後重要なテーマとなるだろう。前半は都市社会学における「よそ者」の議論を紹介し、後半は「まちづくり」における「よそ者」の意味について事例を中心にしながら検討を行う。

- ③ 三浦倫平 『『よそ者の世界』としての都市——都市社会学を中心として』
- ④ 三浦倫平 「まちづくりと『よそ者』」

Ⅲ. まちづくりの社会学 12月6日

前半は、Ⅰ・Ⅱの内容をふまえて、まちづくりの社会学のための基本的な概念・視角を提示する。後半は、受講者が各自の関心領域について報告し、討議を行う（受講者の人数次第で内容を変更する可能性がある）。

- ⑤ 三浦倫平・祐成保志 「まちづくりの社会学に向けて」
- ⑥ 受講者報告（各5分） 討議者：三浦倫平・祐成保志

Ⅳ. まちづくりの諸相①市民活動のネットワーク 12月13日

まちづくりは、強固な地理的境界や所属集団よりも、関心を共有する個人のネットワークと呼ぶべき動的で重層的な関係に根ざしている。世田谷区を事例に、市民活動のネットワークが形成される条件について検討する。

- ⑦ 小山弘美（関東学院大学准教授）
- ⑧ 林泰義（玉川まちづくりハウス）

Ⅴ. まちづくりの諸相②消費空間の変容 12月20日

消費空間は、まちづくりにとって欠かせない要素であるが、同時に、まちづくりをめぐる立場の違いが先鋭化しやすい現場でもある。各地の事例とともに歴史的な事象、理論的な考察にも視野を広げながら消費空間の現在を分析する。

- ⑨ 貞包英之（立教大学准教授）
- ⑩ 新雅史（東洋大学非常勤講師）

Ⅵ. まちづくりの諸相③災害復興とまちづくり 01月10日

まちづくりの諸領域のなかでも、被災地における「復興」まちづくりは様々な困難に直面せざるをえない。それゆえに、実践の成果や課題から学ぶべきことは多い。そこで、復興に向けたまちづくり実践の事例を紹介し、その意義や課題を検討する。

- ⑪ 川副早央里（東洋大学助教）
- ⑫ 大堀研（青山学院大学准教授）

Ⅶ. まちづくりの社会学の基本問題と視点 01月24日

これまでの講義を担当教員の視点で整理し、中間総括を行う。

- ⑬ 三浦倫平 「中間総括Ⅰ」
- ⑭ 祐成保志 「中間総括Ⅱ」

Ⅷ. 受講者報告と全員の討議 01月31日

- ⑮・⑯ 受講者報告（各10分） 討議者および総括：三浦倫平・祐成保志